

エディトリアル

横須賀市立うまち病院 リハビリテーション科 科長 岡本賢太郎

リハビリテーションとひと言に言っても、十分理解されている方は、少ないのではない
か？

最近では少なくなったが、
ある看護師さんから 「心臓のリハビリってなんですか？」
ある医師から 「へ～、無気肺に対するリハビリなんてあるんだ～」
入退院を繰り返すCOPD患者さんから
「今まで、いろんな所に入院したけど、な～んだ、専門家がいるじゃないか！」

理学療法を生業としている小生からしてみれば、「リハビリテーション」というキーワードは急激に普及をしたが、その内容までを十分に理解している人は、少ないように感じる。

ひと言でリハビリテーションと言っても、その幅は非常に広く、医療分野全てと言っても過言ではないほど、全科にわたり対象患者は存在する。そして、各病期に合わせた治療プログラムが施される。例えば、急性期には、発症直後からリスク管理に重点を置いた廃用予防訓練を行い、回復期では、長時間に及ぶ集中的な機能回復訓練を行い、維持期では、身体機能の維持を目的に訓練が行われる。時として訓練場所を自宅に移した訪問リハビリテーションなどもある。そして近年では看取り期までと急性期から終末期までのあらゆる時期に患者の病期に沿った治療プログラムが存在する。

障害に対する治療手段として行われてきたリハビリテーションだったが、社会全体の高齢化に伴う心身機能の低下に対し、介護度の予防、改善を目的とした介護保険下でのリハビリテーションが盛んに話題となってきた。また、ロコモティブシンドロームやメタリックシンドロームなどの疾病予備軍に対する予防教室などへも関与するようになってきた。

これだけ多種多様であり、あらゆる方向に裾野を伸ばしてきたリハビリテーションであるが、2006年の診療報酬改定において、非常に大きな変化があった。疾患別リハビリテーションである。疾患ごとに施設基準が設けられ、ハード、ソフトの両面の整備を整えた施設に対してのみ対象疾患の算定を認めるとした改定である。この改定によって「疾患別」というキーワードが強く意識付けられ、疾患別に専門領域分科会が立ち上がり、その専門性はますます高まりを見せるに至っている。

本特集では、リハビリテーションに対する理解を深めてもらいたく、「整形外科疾患のリハビリテーション」「呼吸リハビリテーション」「心臓リハビリテーション」「糖尿病のリハビリテーション」そして近年話題の「認知症のリハビリテーション」の5つの分野について分かりやすく説明していただいた。